

脳卒中患者において糖尿病が認知機能に与える影響

鈴木 沙梨奈

はじめに：超高齢社会が近づくわが国では、認知症が問題となっている。危険因子である高血圧や脂質異常症、そして糖尿病などの生活習慣病は予防可能である。高齢者糖尿病では認知症や認知機能障害の合併が多く、HbA1cの上昇で認知症の危険度が増加するという報告がある。また糖尿病では脳卒中を合併しやすい事が知られている。今回の研究では、脳卒中患者において、糖尿病が認知機能に及ぼす影響について検討した。

方法：対象の入院リハビリ患者約 120 名を A.糖尿病あり・脳卒中あり、 B.糖尿病なし・脳卒中あり、C.糖尿病なし・脳卒中なしの 3 グループに分類し、各グループの認知機能テストの結果を比較検討した。認知機能テストとしては入院時と退院時の FIM（機能的自立度評価法の認知機能のみ）と MMSE（認知症スクリーニング検査）の点数を抽出した。

結果：脳卒中患者の FIM の比較は、男女とも糖尿病を合併しているグループ A が、糖尿病のないグループ B よりも改善度が少なかった。最も大きく改善していたのは、糖尿病のないグループ B の女性であった。グループ A における男女比較では、男性の方が改善度は良かった。FIM の改善が最も少なかったのは、グループ C の男性であった。FIM の平均点数の比較では、男女ともグループ A はグループ C より低かった。MMSE で有意な改善が認められたのは、グループ A の男性のみであった。

考察：今回 FIM で、糖尿病を合併している脳卒中グループの改善度が少なかったのは糖尿病が認知機能の改善に悪影響を及ぼしているためと考えられた。糖尿病を合併した脳卒中患者における FIM の男女比較では、男性の改善度が良かった。これは、入院時の男性の FIM が著しく低かったためと考えられる。MMSE で、グループ A の男性でしか有意な改善が認められなかった原因としては、FIM は検者が評価し、MMSE では被験者が解答するという評価方法の違いが影響していたと考えられた。